

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 上家潤一

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生に必要な知識を伝えることに責任がある。知識の伝達には学生の理解が必須であり、そのために学生が自律的に勉強するように、当該分野に興味を持たせる授業を心がけている。病理学関連の授業では、実際の症例を提示し、自身の診断に至る思考過程を説明している。演習、実験では、実験の意義を理解し、学生が自分で研究計画を組み立てるよう指導している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医病理学実習Ⅰ	獣医学科	必修	4	134
獣医病理学実習Ⅱ	獣医学科	必修	4	132
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	146
獣医病理学各論Ⅰ	獣医学科	必修	3	146
獣医病理学各論Ⅱ	獣医学科	必修	4	134
獣医学概論	獣医学科	必修	1	135
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	10
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

本学の基盤理念である学理討究はすなわち連続した課題解決であり、自ら課題を設定し、その解決手段を探ることが求められる。大学教育においては学生の自律的な学習が重要である。現在の多くの学生は与えられた課題を既定のルールで解決する受験勉強の延長線上にあり、高学年においても自分で課題の設定ができない学生がいる。自身で課題探索と目標設定、解決策の計画ができる学生を育てたい。そのためには、現在の科学技術の限界を理解することの必要性を学生に伝達しなければならない。教員は関連分野の歴史をすると同時に、常に最先端の獣医医療実施者もしくは研究者である必要がある。本学設立の真の理念を理解し、発展的に学生に伝えたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

正しい知識に基づいて考え、判断する能力を育成したい。病理診断は症例の特徴をとらえ、疾患に分類していく。テキスト内容を画像に置き換えて理解し、症例に応用することが求められる。実症例を経験させることが最適であるが、150名が対象では現実的ではない。そこで、授業では、自験例の写真を紹介しながら、診断に至る思考過程とその根拠画像を解説し、疑似的に病理診断を体験させている。画像の解説では、写真にイラストツールで印をつけて解説し、ライブ感を心がけた。コアカリキュラムで設定される基礎知識の定着のために、毎回10問の選択式の小テストをオンラインで配布した。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

病理学実習において豚と鶏を解剖させ、所見から診断する過程をレポートとして提出させている。

(2) ICTの教育活用

有

病理学実習において、VRを活用した資料を作成して配信した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

配布資料にテキストをできるだけ排除し、写真から病変を読み取る力をつけるように講義内で丁寧に写真の解説をおこなった。

(2) 学生の理解度の把握

A

講義ごとにオンラインによる小テストを実施し理解度を把握している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義動画の配信やオンラインでの小テストを実施しているが、小テストに回答しない学生がおり対策が必要と考えている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

メールでの受付を基本としているが、対面で質問にくる学生が増えている。

(5) 双方向授業への工夫

A

獣医学概論では積極的なグループワークを行った。病理学実習では解剖所見をもとに診断する過程を体験させ、レポートとして提出させた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

資料配信の遅れに指摘があり改善した。真面目に出席している学生から、出席をオンラインで管理することに不満があり、一部の学生が出席していない状況が示唆された。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

出席の確認を適切に行う必要がある。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

授業資料の配信は一週間前に行うこととする。出席に関しては取り方を検討する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

オンラインで小テストを実施し、問題の開示期限を卒業までとすることで授業の復習と国家試験対策に役立てている。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの授業評価で、繰り返し小テストを回答できることに評価が高かった。試験前には小テストのアクセスが500回を超える。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

主に動画視聴にて参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

ドリル形式の課題を中心にして自主学習を推進してきたが、試験対策の暗記が主体となってしまう。実際の症例の病理所見をとり、診断に至るための考える力を養うために、講義中に記述試験を取り入れる。